

T T C 定例山行実施記録表 [2017年1月10日 報告者: SM]

山行計画名	新年山行 足和田山 [1355m 山梨県]		
1. 実施日	平成 29 年 1 月 7 日(土曜日)	日帰り	マイクロバス利用
2. 天候/参加人員	天候: 快晴/ レベル/ ★☆☆	参加人数//14 名(男性 9 名、女性 5 名)	
3. パーティスタッフ	CL/計画: SL: 会計: 救護: 写真:	スタッフ名削除	
4. 参加メンバー	A 班 ☆ B 班 ☆	参加者氏名削除	
5. 費用 <u>5100 円/人</u> カンパ金 412 円	[内訳]①マイクロバスレンタル料: ¥29,268+¥3240(スタッドレスタイヤ)=¥32508、②ドライバー謝礼: ¥18000、③軽油代: (225+50)km÷5 km×¥100=¥5500、④-i 有料道路代(ETC 往復): 東名(厚木 IC ~ 御殿場 IC)¥1710×2=¥3420、④-ii 有料道路代(ETC 往復): 東富士五湖道路(須走⇄富士吉田) ¥740×2=¥1480、⑤入浴代(紅富士の湯、10%引きクーポン)¥720×14 人=¥10080、【総支出】¥70988 集金¥71400(=¥5100×14 人) - 総支出¥70988=残金¥412(→カンパ金)		
6. 所要時間		歩行時間	休憩時間
	ガイドブック	2:55	
	計画	3:40	1:10
	実行	3:28	1:35
			行動時間
			4:50
			5:03

実行コースタイム記録

ヨーカドー前	15 (5)	16 (5)	34 (10)
== 厚木 IC ==
== 御殿場 IC ==	羽根子山	天神社	段和山
== 須走 IC ==	8:07/30	8:45/50	9:06/11
== 富士吉田 IC ==			9:45/55
== 道の駅かつやま ==			
50 (45)	55 (15)	10 (15)	28 (10)
.... 足和田山(昼食) 三湖台展望台 紅葉台レストハウス	... 紅葉台入口 == 富士吉田 IC == 山中湖 IC
10:45/11:30	12:25/40	12:50/13:05	13:33/43
(75)			
== 紅富士の湯 ==	== 山中湖 IC ==	== 須走 IC ==	== 御殿場 IC ==
14:20/15:35		== 中井 PA ==	== 厚木 IC ==
		16:30/17:00	17:40
			== 本厚木駅南口 (→新年会へ) ==

コースの概要、特記事項、反省事項等

会恒例行事である「新年の山行開始は、秀麗な富士を愛でる旅から」ということで、今回は 2 年前の年末に実施したコースと全く同じコースを再実施した。新規性はないが、前回眼前にそびえる富士山の雄姿に感動したメンバーが、あの感動をもう一度・・・と多数[再]参加してくれた。(参加者 14 名中、初参加は私も含め 4 名のみ)。

<コースの概要>

このコースは西湖の南湖岸から盛り上がった、なだらかな山塊のアップダウンの少ない稜線を歩くコースである。この時期、富士山は五合目まで雪(氷?)で覆われており、当日は快晴に恵まれていたため、その斜面は陽光を反射し、まばゆいばかりに輝いていた。そのような富士山を見ながらの 5 時間の楽しく感動的なハイキングであった。(周囲も含めコース全般に積雪もなかった)。

早朝 6 時半に予定通りヨーカドー前を出発。正月 7 日、東名の混雑はいかばかりかと心配したが、登山口「道の駅かつやま」までは渋滞ゼロの快適なドライブ。途中しばしば突然現れる富士山が、次第しだいに大きくなるにつれ参加者の気持ちは徐々に高まっていったようだ。

河口湖畔の「道の駅かつやま」に近づくにつれ、すれ違う地元車はどれも屋根が霜で真っ白。外気が零度をかなり下回っていることを示していた。但し、地面にはどこにも全く雪がなく、前日の現地への問合せ通りに乾いた状態であった。

予定通りに道の駅に到着。湖面も凍らなばかりの寒さに身ぶるいしつつ、ひと気のない静寂のなかで準備を整え、すぐ脇の登山口を出発。まずは羽根子山山頂を目指す。スタートして 15 分で山頂、そこそこの急登のため体が程よく温まり「脱ぎタイム」をとる。そこから更に 15 分程の緩やかな登りにて天神社(ここは

大黒天らしい) に到着。神社の大鈴をならしてメンバーの皆さんは思いおもいにお賽銭額以上のお願いを・・・(かな?)。

更に昼食場所の足和田山までは 2 箇所の短い急登があったが、おしなべて緩やかな登り。足和田山山頂でのやや早目の昼食では、光り輝く富士山が手の届くほどに迫る。

私も長年の登山歴(歴 3 年半は短い?)の中で、一番感動した富士山の雄姿であった。食事後、本日の最高の風景が期待できる三湖台(新展望台が 2015 年完成)、紅葉台(レストハウス)へ向けて出発。

約 1h の緩やかな下りの後、登山ルートから右折を示す標識があり、その指し示す方向に目をやると、整地された平地(幅約 40m、長さ約 150m)が真新しい三湖台展望台へと続いている。

その場所はこの日歩いているこの山塊からちょうど真北に突き出ている地形で、先端の新展望台の眼下には西湖、左手には広大な青木ヶ原樹海、本栖湖。更にその先の山並みを越えた彼方には雪で白く浮き上がった南アルプス(50km 遠方)が青空にくっきりと映えて、誰もが感動する場所。

皆さん、思わず「ウワー」と歓声の後、メンバーそれぞれの記憶/思いを胸に、しばし 270 度のパノラマの世界に言葉もなくひたりきる。

名残り惜しくも 15 分の滞在の後、その新展望台を後にして旅の最後に紅葉台レストハウス(展望台)へ。そこからも、(本日の山行の最後の締めくくりにふさわしい景色)真下の樹海からまさに天高くそびえ立つ圧巻の富士山をじっくり堪能(料金 150 円の価値は十分あります)。

ということで 2017 年新年山行を(ほぼ)パーフェクトに終わることができた。

帰路、紅富士の湯を経由し、本厚木での新年会場へと向かった(途中、中井 PA で 30 分の時間調整)。

<特記事項>

今回の山行は参加者の皆さんにとって満足度 100%だったと推測する。KNN《こ(K)れ以上何(N)か望(N)むものがあるのだろうか》といったところか?

満足の要因を考えてみると:

- ①(なんといっても)山行場所(富士山の眺望はここが一番とのアドバイスで決定したのが正解だった)
- ②(なんといっても、その2)一日中、快晴(メンバーから「これは CL の人徳のお蔭です」と言われ、多分その通りだと(謙虚に)納得してしまった。ちなみに翌 8 日からは天候が激変して大雪で交通も乱れるほどの悪天候。今思えば山行当日は「嵐の前の静けさ」。9 日現在、河口湖周辺は積雪 43cm。ヒェ〜)
- ③無風に近い状態なので風による冷えが(ほぼ)ゼロ
- ④霜柱が日中でも融けずに残り、路面はザクザク状態でほぼ靴の泥まみれなし、ヌルリとした滑りもなし。
- ⑤直射日光への皮膚暴露が少ない(落葉した高木が適度に日光をさえぎり、さしずめ「樹木ブラインドカーテン」の登山道)。
- ⑥空気の透明度が非常に高く、水平方向の距離を感じさせない眺望(50 km 先の冠雪した南アルプスの山並みでもはっきりくっきり。冬季特有の透明感。)
- ⑦(忘れていけないのは、メンバーでもあり、又現役の)登山ガイドの 2 名が参加。お蔭様で参加者全体に始めから安心感がみなぎっていた(これは CL に対する不安感の裏返しか?)

以上のような好条件のお蔭で、稀に見る高満足度(推定)の山行が実現できたと思う。

<反省事項(CLとして)>

- ①「歩くペースを参加者に合わせる」工夫が今一で、やや早め(A 班と B 班の間が開いてしまいがちにも)。
- ②時々、コース標識を判断ミスし(人間だもの)、後続メンバーから指摘されルート修正
- ③気が付いて後ろを振り返ると、CL(私)が一人単独(孤独?)で歩いていることがあった。後続は一步隣の脇の道を賢く選んでいた(歩き易さは脇の道である。これは起こるべくして起きたということなのか)。

以上